

「学習の手引き」について

蓮田市立黒浜西中学校

はじめに

中学校生活の中心は、授業です。みなさんはきっと誰もが「勉強が分かるようになりたい」と思っていることでしょう。だけど、「何をどう勉強してよいのか分からない」と不安を感じている人もいるのではないのでしょうか。そこで、少しでもその不安を減らし、目標を持って学習に取り組めるように、「学習の手引き」を作成しました。これは、**各教科でこの一年間に、何を目標に、どんなことを、いつ頃、どう学ぶかをまとめたものです。また、何をもとに評価していくのかについても記されています。「学習の手引き」は、学習の「道しるべ」であり、見通しを持った学習が行えるように活用してみてください。**

学習の手引きの趣旨

○各教科の身に付けたい力を確認する

それぞれの教科でどんな学習をするのか、教科の学習の目的は何なのか、また、学習することでどのような力を身に付けるのかを確認することができます。

○学習内容の進み方を確認する

学習予定により、一年間でいつ頃にどんな学習をするのか知ることができます。教科書と照らし合わせながら、自主的な学習計画を立て、積極的に授業へ参加できるようにしましょう。

○評価の方法を知る

学習のポイントは何かを知ることは、学習意欲の向上につながりますし、学習に張り合いが出ます。先生方はそれぞれの教科のねらいに対して、一人一人が「どのくらい到達しているのか」「何ができていないのか」「今後どう指導していけばいいのか」等を知るために、各教科の特性に合わせて評価をしていきます。次の「**評価の方法について**」を参考に、効果的な学習方法を確立していきましょう。

評価の方法について

○各教科の観点別評価の視点

それぞれの教科では、文部科学省の定めた学習指導要領に沿って、3つの観点が定められています。「**こんながんばりが評価されます**」では、各教科の観点別評価は主に何をもとにして評価されているのかが書かれていますので、日々の授業に役立ててください。各教科とも、テストだけではなくいろいろなことに着目していることが分かります。

○各観点の評価方法を確認する

また、「**こんながんばりが評価されます**」では、各教科の特性や、評価をつけるときの着眼点が書かれています。これまでの学習の取組を振り返り、不足している部分や十分に満足できる部分を知る資料として活用してください。そして、これらを参考に、効果的な学習方法を確立していきましょう。また、保護者の皆様には、御家庭で授業や家庭学習について話題にいただき、生徒のノートやプリントなどにも目を通してみてください。

○観点別評価と評定の関係づけについて

観点別評価は、次の表の①～③の3観点になります。

①知識・技能

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連づけたり活用する中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得しているかについて評価するもの

〈評価方法〉

- ・ペーパーテスト（知識・概念）
- ・文章による説明
- ・観察や実験
- ・式やグラフによる表現 等

②思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを判断するもの

〈評価方法〉

- ・ペーパーテスト
- ・論述やレポート作成
- ・発表
- ・グループでの話し合い
- ・作品の製作や表現 等

③主体的に学習に取り組む態度

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、

(a) 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し学習の進め方について試行錯誤しているか

(b) 自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか

という意思的な側面を評価するもので、(a)、(b)両方が認められて、初めて「A」と評価される

〈評価方法〉

- ・ノートやレポートによる記述
- ・授業中の発言
- ・教師による行動観察
- ・自己評価や相互評価 等

観点別評価は、評価項目ごとに以下のようにA,B,Cの3段階で評価されます。

「A」・・・その観点に関して、**十分に満足できる状態**
「B」・・・その観点に関して、**おおむね満足できる状態**
「C」・・・その観点に関して、**努力を要する状態**

※原則、観点①または②に「C」がついた場合、③に「A」がつくことはありません。

各教科の各観点別評価をもとに、総合的に「1～5」の5段階で評価を出します。「1～5」の評価は、中学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を次のように判断されるものを表すものです。

- | | | |
|---|---|----------------------|
| 5 | … | 十分満足できるもののうち、特に程度が高い |
| 4 | … | 十分満足できる |
| 3 | … | おおむね満足できる |
| 2 | … | 努力を要する |
| 1 | … | 一層努力を要する |

本校の観点別評価と評価の関連づけについて、おおよその目安となるのが下の表1です。

表1：観点別評価と評価を関連づける例

Aの数	3	2	1	0	0	0	0
Bの数	0	1	2	3	2	1	0
Cの数	0	0	0	0	1	2	3
評 定	5 4	4	3	3	3	2	2 1

※ 「A・A・A」は「4または5」で、必ずしも「5」となるとは限りません。また、「C・C・C」は「2または1」で、必ずしも「1」となるとは限りません。

保護者の皆様へ

生徒たちが主体的に学習を行い、自ら高める活動を私たちは全力で支援していきます。

- 「学習の手引き」は、
- ・ 学習の単元や題材、また学習内容を示したものです。
 - ・ 学習すべき目標（評価の規準）も示されています。
 - ・ 学習の様子を評価する方法も示されています。

学習の主体者である生徒たちが目標を持ち、学習内容を十分に習得できるように願い、「学習の指針」としてこの「学習の手引き」を作成しました。ぜひ、有効に御活用ください。



国語科の学習



こんな力をつけよう

- A【話すこと・聞くこと】ものの見方や考え方を深め、目的や場面に合わせて、的確に話したり聞き取ったりできる力を身につけよう。また、自分の話し言葉を豊かにしよう。
- B【書くこと】さまざまな材料をもとに考えを深め、相手や目的に合わせて、筋道の通った効果的な文章を書く力を身につけよう。
- C【読むこと】文章の内容や言葉の使い方を的確にとらえられる力を身につけよう。そして目的に合わせて文章を読んだり、広く情報を集めたりして、自分のものの見方や考え方を広げると共に、それらを効果的に活用できるようにしよう。そのためにも積極的に読書に親しもう。

こんながんばりが評価されます

※授業の状況により、下記以外の観点や方法で評価する場合があります

	観 点	方 法
1	【知識及び技能】 ①漢字を正しく読んだり書いたり、使いこなしたりすることができるか。 ②日本語の基本的な文法について理解できているか。 ③書写においては、文字を正しく、美しく、整えて書くことができるか。 ④方言やことわざ・慣用句など、日本語の多様性と豊かさについて関心をもち、理解を深めようとしているか。	定期試験等、小テスト、硬筆、書き初め等
2	【思考力、判断力、表現力】以下 A～C	
A	【話す・聞く能力】 ①授業に集中し、落ち着いて考え、人前で積極的に自分の考えを話そうとしているか。 ②発言時にはきちんとした言葉づかいで、みんなに聞こえるように話しているか。 ③発表や討論では、自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、相手の発言をしっかり聞き取ったりしているか。	授業中の観察、発表の仕方と内容、定期試験等
B	【書く能力】 ①作文や感想文等で、自分の考えや気持ちを的確に表すために、材料をそろえ、組み立てを考え、説得力のある文章を書こうとしているか。 ②正しい漢字や言葉を用い、日本語として自然な言い回しの文章を書いているか。 ③話し言葉と書き言葉をきちんと使い分けているか。 ④短歌や創作文等で、感性豊かな作品や文章を作ることができたか。	作文、感想文、短歌、要約文、意見文、定期試験等
C	【読む能力】 ①授業中、聞く側のことを考えた効果的な音読・朗読をしているか。 ②様々な文章の主題や内容・作者の思い等についての的確に内容を読み取っているか。	授業中の音読、朗読等 定期試験等
3	【主体的に学習に取り組む態度】 ①忘れ物をせずに授業に臨んでいるか。 ②授業に積極的に参加し、進んで発言しようとしているか。 ③授業中出された課題やノートの記録、プリント記入などにしっかり取り組んでいるか。 ④提出物はきちんと仕上げ、期限を守って提出するよう頑張っているか。	授業中の観察、作品等の提出物、ノート、ワーク、プリント等

こんなふう to 勉強しよう

授業では

1. 授業には前向きな姿勢で参加しよう！

- 積極的に手を挙げ、発言や質問をしましょう。自分が発言したことや質問したことは忘れないものです。
- 授業ではどんな失敗でも許されます。人前で話したり、自分の考えを述べたりすることに慣れるための場だと思い、失敗を恐れずチャレンジしましょう。
- 発言や発表時には**起立**し、全員に聞こえるよう大きくはっきりした声でおこないましょう。
- 教師の説明や友達の発言の時には集中し静かに聞きましょう。自分の考えを広げ深めるときです。
- 提出物は期限を守り**必ず提出**しましょう。

2. ノート作りを工夫しよう。

- ただ黒板を写すだけではなく、先生の説明や友達の発言などで大切だと思ったことは書き込んでおきましょう。ふと浮かんだ自分の小さな感想や疑問などもその都度、メモしておくことで必ず役立ちます。
- 2～3色くらいのペンを使用して、自分にとって**使いやすい工夫**をしましょう。後で書き込みができるようにつめて書かずに、充分、余白を残しながら書いていくほうがよいと思います。
- 授業で使用した補助プリントやワークシート等は、必ずその都度、貼ったりファイルに綴じたりしておきましょう。

家では

- ・まず、教科書を音読し、確実に読めるようにしておきましょう。
- ・読めない漢字や意味のよくわからない語句は、辞書で調べ、ワークやノートに書いておきましょう。
- ・文法や漢字の習得は、積み重ねが大切です。そのままにしておくとどんどんわからなくなってしまう。
新出漢字や読み書きのできない字は、我慢強く覚えていくしかありません。根気のいる学習ですが、漢字の力は“一生の宝”と言ってもよいでしょう。着実に身につける覚悟で学習に取り組みましょう。漢字練習専用のノートを作るのもよいと思います。
- ・積極的に新聞のコラムや興味のある記事を読んだり、読書をしたりしましょう。読解力がつくと同時に、言葉の種類と数が増え、ものの見方や考え方がぐんと深まります。

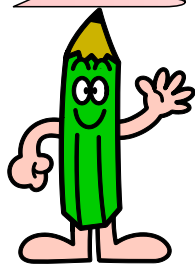
※黒浜西中では朝読書を行っています。本を読む意欲・読解力の向上のためにも真剣に取り組みましょう。

こんな内容を学習します

※ 計画ですので、変更する場合があります。

	1 年	2 年	3 年
一学期	◆言葉に出会うために 詩「野原はうたう」 スピーチ学習 ◆学びをひらく 『シンシュン』 ◆新しい視点へ 『ダイコンは大きな根?』 『ちょっと立ち止まって』 文法「言葉の単位」 	◆広がる学びへ 詩「見えないだけ」 『アイスプラネット』 スピーチ学習 『枕草子』 文法「自立語」 言語「類義語・対義語・多義語」 硬筆 ◆言葉と向き合う 『短歌に親しむ』 	◆深まる学びへ 詩「世界はうつくしいと」 作文 スピーチ学習 『握手』 ◆視野を広げて 『作られた「物語」を超えて』 文法「文法を生かす」 言語「和語・漢語・外来語」
二学期	スピーチ学習 ◆心の動き 『星の花が降るころに』 『大人になれなかった弟たちに……』 言語「指示する語句と接続する語句」 ◆いにしえの心にふれる いろは歌 『竹取物語』 故事成語  	スピーチ学習 ◆多様な視点から 『クマゼミ増加の原因を探る』 ◆人間のきずな 『盆土産』『字のない葉書』 ◆論理を捉えて 『モアイは語る』 ◆いにしえの心を訪ねる 『平家物語』『徒然草』 『漢詩の風景』 形容詞  文法「用言の活用」 言語「敬語」	スピーチ学習 ◆言葉とともに 『俳句の可能性』 ◆状況の中で 『挨拶』 『故郷』 ◆いにしえの心と語らう 『おくのほそ道』   「万葉」「古今」「新古今」論語 文法「文法のまとめ」 言語「慣用句・ことわざ・故事成語」
三学期	スピーチ学習 ◆筋道を立てて 『「言葉」をもつ鳥、ジジュカラ』 文法「単語の分類」 ◆自分を見つめて 『少年の日の思い出』 話し合い活動 	スピーチ学習 ◆価値を語る 『君は「最後の晩餐」を知っているか』 文法「付属語」 ◆自分を見つめる 『走れメロス』 話し合い活動 	◆自らの考えを 『人工知能と未来』 『人間と人工知能と創造性』 ◆価値を生み出す 『誰かの代わりに』 ◆未来へ向かって 『温かいスープ』 話し合い活動 

こんな力をつけよう！



数 学 科

- 数量や図形についての基礎的な知識を身に着けよう。
- 身のまわりのことがらを数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身につけよう。
- 数学的な思考力・判断力・表現力を身につけよう。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、粘り強く考え、生活に生かそうとする態度を養おう。

こんなふうに勉強しよう！



“聞いて分かる”ことと“自分で解ける”事は違います。学力をつけることは、家で必ず復習の時間を作ろう！

■授業■

■予習■

教科書を中心に授業のポイントや流れを事前に確認しておく。
見通しを持って授業に望むことが大切です！



- ① 授業の準備をしっかりしよう。
(忘れ物をしない、チャイム席を守るが基本です。)
- ② 目的と意欲を持って授業に望もう。
(課題に真剣に取り組もう。説明や発表をよく聞こう。積極的に挙手しよう。)
- ③ 分からないところは質問しよう。
(分からないときが分かるチャンスです。)
- ④ 工夫してノートをとろう。
(ねらい、要点、考え、振り返りを整理して、一目で復習できるノートをつくらう。)

■復習■

その日に習ったことは、その日のうちに再度確認することが最大のポイントです。理解が不十分なところは補充学習をしよう。また、繰り返し問題を解いて、定着させるようにしよう。

予習 → 授業 → 復習 のサイクルを確立しよう！



こんな頑張りが評価されます！

主体的に学習に取り組む態度

- ◎ 数学的な事柄に日頃から関心を持ち、数学的な活動の楽しさや数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを使って考えを進めようとしているかを評価します。
- ・授業に課題を持って参加しているか。
- ・自分の力で解決しようとしているか。また、分からないことは聞き、友達や先生の考えや意見を参考にしようとしているか。
- ・多様な考え方を認め、よりよく問題解決しようとする態度を身に付けているか。
- ・数学のよさを実感し、粘り強くかつ柔軟に考えようとしているか。

[評価の手立て] 授業ノート、挙手・発言、ワーク、振り返りシート など

数学的な思考力・判断力・表現力

- ◎ 数学の授業や活動を通して、数学的な見方や考え方を身につけ、物事を数学的にとらえて、論理的に考えて判断し、友達にわかりやすく説明する方法が身に付いているか、またそれをふり返って考えを深めているか評価します。
- ・日常生活の中の数学を見つけ、その性質や法則性を考えたりしているか。
- ・自分の考えのよさ、友達の考えよさを比較し、よりよい考え方を身に付けようとしているか。
- ・自分の考えを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表すことができているか。また、自分の考えをわかりやすく友達に説明できるか。

[評価の手立て] 定期テスト、発言・発表、レポート、授業ノート など

数量・図形などについての知識・技能

- ◎ 数や式、図形、関数関係についての基本的な概念や原理、法則などについて理解し、知識を身につけているかを評価します。
- ◎ 数や式、図形、関数関係について、数学の考えに従って、正確に処理する方法が身につけているかを評価します。
- ・先を見通して計算や説明ができているか。
- ・自分の考えが正しいことを、根拠をあげて説明できているか。
- ・公式や求め方を丸暗記して満足せず、既習事項を活用して問題解決ができているか。

[評価の手立て] 定期テスト、小テスト、観点別評テスト(単元末テスト)、発言 など

1年:数学に親しもう		2年:数学を広めよう		3年:数学を深めよう		
章	節	章	節	章	節	
1 学期	0 算数から数学へ					
	整数の性質				1 多項式の計算	
	1 正負の数 プラスやマイナスについて学び、数の範囲が広がります。	1 式の計算 文字を使った式の加減を表す方法を学び、式の表し方を広めます。	1 式の計算	1 多項式 文字を使った式の乗除を表す方法を学び、式の表し方を深めます。	2 因数分解	
			2 文字式の利用		3 式の計算の利用	
					2 連立方程式とその解き方	1 平方根
						2 連立方程式の利用
	2 文字と式 文字を使って計算をすることで、式の意味を理解します。	2 連立方程式 条件の複雑な未知の量の求め方を広めます。	1 1次関数	2 平方根 二乗して2になるような数について学び、数の範囲がさらに深まります。	3 平方根の利用	
	2 文字式の計算		2 1次関数の性質と調べ方		3 2次方程式 さらに条件の複雑な未知の量の求め方を深めます。	1 2次方程式とその解き方
	3 文字式の利用		3 2元1次方程式と1次関数			2 2次方程式の利用
	3 方程式 未知の数量が見つかります。		4 1次関数の利用		4 関数 $y=ax^2$ 関数の考えを深め、グラフの読み書きとともに、やや複雑な数量関係を推測したりします。	1 関数 $y=ax^2$
2 1次方程式の利用		2 関数 $y=ax^2$ の性質と調べ方				
4 比例と反比例 ともなって変化する2つの数量についての関数の基本を学びます。	4 平行と合同 直線や角についての基本的な性質を学習し平面図形の見方へ広めます。	1 説明のしくみ	5 相似な図形 論理的に表現する方法についての考えを広め、図形の性質の学習をさらに深めます。	3 いろいろな関数の利用		
		2 平行線と角		5 相似な図形 論理的に表現する方法についての考えを広め、図形の性質の学習をさらに深めます。		1 相似な図形
		3 合同な図形			2 平行線と比	
		4 比例と反比例の利用			2 平行四辺形	3 相似な図形の面積と体積
5 平面図形 平面図形の基本とコンパスや三角定規の使い方を学びます。	5 三角形と四角形 図形の性質等を使って、等しいことや正しいことを論理的に表現する方法について学習します。	1 三角形	6 円 円周角と中心角の関係を理解し、角度を求めたり、証明に役立てます。	1 円周角の定理		
		2 平行四辺形		2 円周角の定理の利用		
			6 確率 偶然起こる事柄の確からしさや、起こりやすさについて学びます。	1 確率	7 三平方の定理 直角三角形の性質を利用して辺の長さを求めたり、いろいろな課題に応用します。	1 三平方の定理
2 確率による説明		2 三平方の定理の利用				
6 空間図形 立体についての基本を学びます。		7 データの比較 複数のデータの分布を比較し、傾向を比較判断する方法を学びます。		1 四分位範囲と箱ひげ図	8 標本調査 集団の傾向を知るための調査の仕方について学習します。	1 標本調査
			1 データの整理と分析			
	2 データの活用					
7 データの分析と活用 資料を表やグラフに表すよさを学習します。	3 ことがらの起こりやすさ					
◎年間140時間学習します。		◎年間105時間学習します。		◎年間140時間学習します。		

こんな力をつけよう

- 地球でおこっているさまざまなできごとに興味や関心を持とう。
- 興味・関心を持ったことがあったら、もう少し詳しく調べてみよう。
※世界の国の名前や位置、気候はどうか、どんな生活をしているのか。どんな歴史があるのか・・・。
- 調べたことを、自分なりに考えてまとめたり、人にわかりやすく説明できるようにしよう。
- 社会科の目標は『国際社会に貢献できる人』づくり。そのために、日本を知り地球を知る努力を欠かさないこと。

社会科

こんなふう勉強しよう

- 授業に集中することが一番。
- 地図は社会科の基本です。地理はもちろん歴史でも地図で確認すること。
※地図帳は情報の宝庫です。
- 丸暗記では努力しても力にならない。特に歴史は時代ごとに順を追って、大きく特色をつかむようにしましょう。
- 公民は今の社会の仕組みを、学びます。身近な生活と結びつけることが大切です。

学校では

- 新聞やTVのニュースを見よう。
- 明日の授業の予習ををすると、授業がとってもわかりやすくなります。授業の後は、家で復習する習慣をつけましょう。
- 政治のこと経済のこと
疑問に思ったことを家の人に聞いてみよう。きっと意外なことを教えてくれるはず！

家庭では

こんながんばりが評価されます

知識・技能

- 日本のことをよく理解するために、地理・歴史・公民の基礎的な知識と、それらの関連性を理解しているかどうかを評価します。
- ・地理は国名と都道府県名を、たくさん覚えておこう。
- ・歴史は5W1Hが基本。
- ※When(いつ) Where(どこで)
Who(だれが) What(なにを)
Why(なぜ) How(どのように)
- ・公民は政治や経済の基本的な知識を身につけます。新聞・TVニュースを見よう。

思考・判断・表現

- いろいろな資料を集めてきてその中から、いいものを選びレポートなどにまとめる力と、みんなに発表する力を評価します。
- ・いい資料を選ぶために、努力したかな？
- ・レポートなど見やすくきれいにまとめられたかな？
- ・発表がみんなの前で、堂々できたかな？

- 課題を解決するために、歴史的な視点から考えたり、地理的な視点から考えたり政治や経済の視点から考えたりしながら公平で正しい判断ができるかどうか評価します。
- ・疑問に思ったことを、いろいろな発想で考えているかな？
- ・『なるほど・・・！』と課題が解決されたとき、それで終わっていないかな？
- ※『じゃあ、あれもそうか！』『でも、これはちがうはず！』

主体的に学習に取り組む態度

- 社会科の勉強が好きで一生懸命やっているかどうかを評価します。
- ・授業に集中しているかな？
- ・提出物を期限までに出しているかな？
- ・疑問に思ったことや興味のあることを調べたり質問したりしているかな？

努力は嘘をつかないのじゃ！



	1 年生	2 年生	3 年生
	地理	地理	歴史・公民
1 学期	世界の様々な地域 ○世界の地域構成 地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを取り上げ世界の地域構成を学習します。	日本の様々な地域 ○世界と比べた日本の地域的特色 日本全体の視野から見た日本の地域的特色をとりあげ、日本の国土の特色をとらえます。 ①自然環境 ②人口 ③資源・エネルギーと産業 ④地域間の結びつき	現代の日本と世界 ○日本の民主化と国際社会への復帰 日本の復興と国際社会に復帰する様子を学びます。 ○国際社会と日本 現在の日本の様子と世界との関わりを考えます。
2 学期	○日本の地域構成 地球儀や地図を活用し、日本の国土の位置、領域の特色、地域区分などから日本の地域構成を学習します。	○日本の諸地域 日本をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域について、次のような地域の特色を学びます。 ①自然環境 ②歴史的背景 ③産業 ④環境問題や環境保全 ⑤人口や都市・村落 ⑥生活・文化 ⑦他地域との結びつき	私たちが生きる現代社会と文化 ○現代日本の特色として少子高齢化、情報化などについて学びます。
3 学期	○世界各地の人々の生活と環境 世界各地における人々の生活の様子とその変化について、自然や社会的条件と関連づけて考えます。	○身近な地域の調査 蓮田市の観察や調査を行います。また、地形図の読み方を学習します。	私たちが政治 ○人間の尊重と日本国憲法 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の役割について考えます。
	○世界の諸地域 世界の諸地域について、各州に暮らす人々の生活の様子を学びます。 ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア	○第二次世界大戦とアジア 第二次世界大戦と太平洋戦争を考えます。	私たちが経済 ○市場の働きと経済 消費生活や流通・生産のしくみを学び考えます。
	○世界の様々な地域の調査 世界の諸地域に暮らす人々の様子を取り上げ、様々な国の調査を行う際の視点や方法を身に付けます。 ※新 1・2 年生は履修しません。	○身近な地域の調査 蓮田市の観察や調査を行います。また、地形図の読み方を学習します。	私たちが政治 ○人間の尊重と日本国憲法 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の役割について考えます。
	 		

※新 1・2 年生はモンゴルとイスラム文化も学びます。

4 こんな内容を学習します。

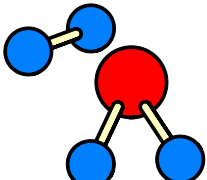
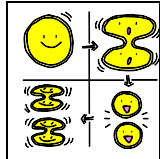
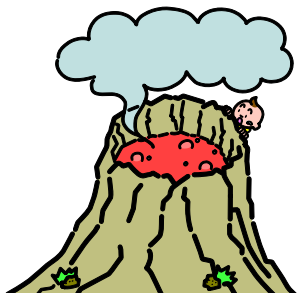
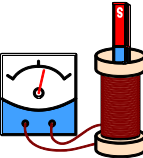
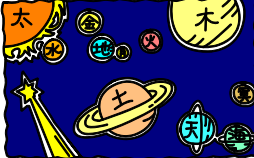
1分野 物質とエネルギー 編

物理・化学

2分野 生命と地球 編

生物・地学



	1 年生	2 年生	3 年生
1 学 期	植物の世界 生物の観察 植物の体のつくりと働き 植物の仲間  身のまわりの物質 物質のすがた 水溶液・状態変化	化学変化と原子・分子 物質の成り立ち 化学変化 化学変化と物質の質量 	生命のつながり 生物の生長と増え方 遺伝の規則性と遺伝子  運動とエネルギー 運動の規則性 力学的エネルギー
2 学 期	変動する大地 火山と地震 地層の重なりと過去の様子 	電流とそのはたらき 電流 電流と磁界  動物の世界 生物と細胞 動物の体のつくりと働き 動物の仲間 生物の変遷と進化	地球と宇宙 天体の動きと地球の自転・公転 太陽系と恒星  化学変化とイオン 水溶液とイオン 酸・アルカリとイオン
3 学 期	身のまわりの現象 光と音 力と圧力	天気とその変化 気象観測 天気の変化 日本の気象 大気の動きと海洋の影響 	生物どうしのつながり 生物と環境 自然の恵みと災害 自然環境の保全と科学技術の利用  自然・科学技術と人間 エネルギー 科学技術の発展 自然環境の保全と科学技術の利用

理科

1、こんな力をつけよう

自然の事物・現象に進んでかわり、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2、こんなふうに勉強しよう

(1) 授業では

- ① 目的、方法をよく理解してから、実験・観察に取り組もう。
- ② 変化の様子を正確に観察・測定して記録しよう。
- ③ 他の人の考えも参考にして、自分の考えを深め、レポートをまとめよう。
- ④ レポートや定期テストの答案が返されたとき、必ず見直しをしよう。
- ⑤ 問題プリントは、間違ったところを見直ししておこう。

(2) 家庭では

- ① その日に学習したところを復習しておこう。
- ② ノートやプリント、教科書をよく見直ししておこう。
- ③ 返却されたレポートをもとに目的・方法・結果をよく理解しておこう。
- ④ 問題集やプリントで学習したときは、間違ったところやわからなかったところを確認し解決しておこう。

3、こんながんばりが評価されます

評価の観点	評価の方法
① <u>知識・技能</u> ・ 自然の事物、現象に関する基本的な内容を理解し、その知識を身につけているか。 ・ 観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけているか。	・ 小テストや定期テストの内容 ・ 授業内での発言の内容 ・ 授業内の観察、実験の器具の使い方 ・ 実験器具の使い方等のパフォーマンステスト ・ ワークやノートの内容
② <u>思考・判断・表現</u> ・ 自然の事物、現象から問題を見いだすことができるか。 ・ 見通しをもって観察、実験などを行っているか。 ・ 観察、実験から得られた結果を分析して解釈し、表現することができるか。 ・ 観察、実験から得られた結果と自然の事物、現象を関連づけて考えられる	・ 自然の事物、現象についての課題に対する自分の考えの内容 ・ 観察、実験から得られた結果を分析したレポートまたはノートの考察の内容 ・ グループでの話し合いの内容 ・ ワークやノートの内容
③ <u>主体的に学習に取り組む態度</u> ・ 自然の事物、現象に進んで関わっているか。 ・ 自然の事物、現象に対して、科学的に探求しようとしているか。	・ 予想や結果の分析などを考えているときの態度 ・ ワークやノートの内容 ・ 観察、実験を行っているときの姿勢 ・ 授業中の態度

音楽



1 こんな力をつけよう

(1)「音」を聴いて「音」や「音楽」に興味や関心を持とう。日本の音楽や世界の音楽などたくさんの音楽に触れることで、それらの特徴や良さを感じることができるようになります。

(2)「音楽」を表現するための技能を身につけよう。音楽が好きになり、音楽の楽しさや美しさを体験することができます。

2 こんなふう to 勉強しよう

(1) 授業では

- ・音楽室に入ったら、音楽を学ぶ気持ちを持とう。これから新たに学ぶ楽しさや授業に期待をしよう。
- ・学習道具(教科書・合唱曲集・プリント・筆記用具等)を忘れないこと。
- ・授業開始時間に遅れないように着席すること。遅れてきたときは、遅れた理由を先生に報告してから着席すること。
- ・あいさつは大きな声で心をこめてしましょう。
- ・授業中、勝手に席を立ったり、無駄な私語はしないこと。
- ・音楽室の物は大切に使うこと。授業のマナーをしっかり守ってください。
- ・先生の話、友達の演奏、模範のCDやDVDなどを集中してよく聴きましょう。新しいことを知る喜びや分かる楽しさを体験できます。
- ・元気よく、大きな声で歌いましょう。恥ずかしがらずに自分を素直に表現しましょう。
- ・正しい姿勢や正しい発声の仕方を身につけよう。良い声は姿勢から。
- ・音楽の美しさや豊かな響きを身体で感じ、感性に磨きをかけよう。
- ・友だちと心を合わせ演奏する楽しさを味わおう。一人で表現する楽しみと友だちやクラスの人々と共に練習し、苦労し、成功させた時の満足感や感動をぜひ味わいましょう。
- ・人に感動を与える音楽創りに励みましょう。



(2) 家庭では

- ・その日の授業や自分の活動の様子を家の方に話そう。家の方の体験談やアドバイスも貴重です。
- ・テレビやスマホ、コンピューター等を上手に活用し、「たくさんの分野の音楽」を聴こう。
- ・身の周りにある「音」や「音楽」に興味を持とう。幅広い教養を身につけ、機会があれば「本物の演奏」をぜひ聴きに行きましょう。



3 こんながんばりが評価されます

毎回の授業での主体的に授業に取り組む活動する様子と実技テスト、定期テスト、提出プリントなどを総合して評価します。

技能・知識 ・歌詞や歌詞の意味、音楽の曲想と音楽の構造や特徴（音楽を形づくっている要素）、背景などの関りについてよく理解している。 ・工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌唱、演奏している。 ・歌唱、器楽曲、鑑賞曲などのその楽曲についてまた作詞・作曲者やその曲が作られた時代背景などについて理解をしている。 鑑賞する曲の作曲者や楽曲について、時代背景、エピソード等をよく理解している。	・音楽をつくる要素（速さに関する記号、強弱に関する記号、表現に関する記号等の意味など）がしっかりと理解して表現に生かされているか。 ・工夫を生かした表現でその曲を歌唱、演奏するために必要な発声、発音等が身に付いているか。 ・音楽の良さや美しさを感じ、また表現するための知識や技能が身に付いているか。 ・定期テストの内容がよく理解できているか。
思考・判断・表現 音楽や詞などその音楽をつくっている要素や要素同士の関連等を考えその良さや美しさを感じ、その曲にふさわしい音楽表現を考え、工夫して表現豊かな歌唱、演奏をする。	・美しく豊かな音色や発音をめざして歌唱、演奏しているか。 ・詞や曲の雰囲気を感じて歌唱、演奏をしている。 ・音楽の特徴や良さを感じることができているか。 ・音のつながりや構成などを理解し、それらを生かした表現を工夫して曲想をつけて歌唱演奏されているか。
主体的に学習に取り組む態度 音楽に親しみ、主体的に、かつ積極的に進んで学習する姿勢で取り組んでいる。 パート練習や合唱、合奏演奏では他の生徒と協力し合い活動している	・積極的に力を伸ばそうと努力しているか。 ・パートやグループ練習に積極的にまた協力的に参加しているか。 ・意欲を持って主体的にかつ積極的に進んで活動する姿勢がみられているか。 ・集中して取り組み音楽を楽しんでいるか。

4 こんな内容を学習します

*学年により曲が異なります

1 学期	2 学期	3 学期
○ 発声について学習する。 姿勢、口の形、呼吸、表情 発声体操、発声練習 ○ 校歌、日本歌曲その他の歌唱教材をとおし上記のことがらについて学習する。 浜辺の歌 赤とんぼ ○ 器楽の学習 打楽器（ハンドクラップス含む）アルトリコーダー ○ 西洋音楽の名曲の鑑賞 歌曲の名曲、鍵盤楽器の名曲、管弦楽の名曲等	○ 日本歌曲・合唱コンクールに向けての取り組み 学年合唱、クラス合唱 夏の思い出 荒城の月 その他の歌唱教材 ○ 合唱コンクール曲をとおしでの重唱の練習と発表 ○ 西洋・日本音楽の名曲の鑑賞 管弦楽の名曲 鍵盤楽器の名曲等 ○ 日本の伝統音楽の鑑賞 箏、尺八の名曲 歌舞伎、文楽、雅楽 能	○ 行事に向けての取り組み 3 送会、卒業式で歌う合唱曲 リズム打ち 卒業生の合唱 在校生の合唱 全校合唱 ○ 西洋音楽の名曲の鑑賞 管弦楽の名曲 弦楽合奏の名曲等 オペラの名曲



★ 美術 ★



1. 教科の特徴と学習ポイント

美術は、制作や鑑賞を通して、心を育てる教科です。学習は、絵を描いたりいろいろなものをつくったりすることが中心となります。その中で、美的な感覚を洗練し、表現の能力を養うとともに、美術的な能力を生活に生かす態度や習慣を培っていくのです。大切なことは、自分の見方で、自分の考えで、自らつくり出していくことです。たえず自分のまわりのいろいろなものを注意深く観察して、色や形に対する感覚を磨いていきましょう。また、1つの作品を完成するのに何時間もかかります。1時間、1時間を大切に、真剣に取り組み、そして完成した満足感・充実感を味わってほしいと思います。

<学習のポイント>

- ①素直な気持ちで、自分なりの表現をする。
- ②根気強く、最後まであきらめずに制作に没頭する。
- ③作品・用具は大切に扱う。
- ④制作に必要な材料は自分で用意する。
- ⑤作品は、決められた期日までに必ず提出する。

1. 年間の学習予定

○表現（絵や彫刻）（デザインや工芸）

○鑑賞

月	1年	2年	3年
4	◆オリエンテーション	◆気持ちを素直に（鑑賞）	◆日本美術（鑑賞）
5	◆基礎的な表現技法の体得 ・素描 ・構図	◆自分を見つめて （絵）	◆私の和（絵） ・伝統色
6	・文字のデザイン	・素描 ・構図	・伝統模様
7	・絵の具、用具の扱い方	・絵の具、用具の扱い方	・ジャポニズム
9	・色の性質	・色の性質	・構図
9	・いろいろな表現方法	・いろいろな表現方法	
10	◆身近な風景を描こう （絵）	◆日本の伝統と（鑑賞）	◆彫刻作品の歴史（鑑賞）
11	◆箸置きをデザインしよう （彫・デ・工）	◆私の欄間 （絵・彫）	◆心のモニュメント （絵・彫）
12	◆心の形（彫）	・彫刻刀の使用方法	・彫刻技法
1	◆学校をよくしよう（デ・絵）	・彫刻技法	・立体作品の空間認識
2	・レタリング	◆自分のマークをつくろう （デ・工）	◆作品に思いを込めて（鑑賞）
3	・構成		◆感謝の心を込めた プレゼント （絵・デ）

1. 評価の観点と方法について

制作が中心となりますが、美術でも知識・理解として覚えなくてはいけないことがたくさんあります。知識として理解し、実際に作品の中にそれが生かされているか（身につけているか）ということが評価の重要なポイントとなってきます。

また、作品の中にどれだけ自分の思いを詰め込むことができたか。そのためにいかにして試行錯誤し粘り強く作品と向き合うことができたか、といった活動状況も反映されます。

その他にも、鑑賞においてどのように作者の思いを汲み取ったり、工夫や技術（技法）、美しさなどを感じ取ることができたかなども評価に入ります。さらに、作品をつくる上で欠かせないアイデアや表現に必要な資料や材料、道具をきちんと用意できているか、作品や提出物が期限を守って提出できているかなども確認し、通知表に示されます。

観点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
内容	- 自分の表現に必要な材料や技法を選んで、有効に活用している。 - 自分独自の表現をするための工夫をしている。 - 自分の作品に愛情を持ち友だちの作品の良さを見つけ、自分の制作に役立てることができる。 - 作者の工夫や技術（技法）を知り、読み解くことができる。	- アイデアが豊富で、その中から意図にあった最良のものを選ぶことができる。 - 制作の見通しを立てている。 - 作者の思いや意図を汲み取り、美しさを感じ取ることができる。	- 制作に熱中して、最後まで頑張って作品を完成させている。 - 材料、用具などの準備、片付けがきちんとできる。 - 提出期限を守る。
評価方法	- 授業時の活動状況 - 材料の準備状況 - 完成作品 - 鑑賞カード - 自己評価、相互評価の状況 - 定期テスト	- 授業時の活動状況 - 制作カードの記入状況 - 完成作品 - 鑑賞カード - 定期テスト	- 授業時の活動状況 - 制作の計画性 - 忘れ物や作品の提出 - 道具や材料の準備、片付け - 定期テスト



保健体育



1 こんな力をつけよう

- ・ 色々な運動に親しむことで、体力を高め、強い心を育てよう。
- ・ 健康・安全についての知識を深め、実践できる力をつけよう。



2 こんなふうに勉強しよう

(1) 授業では

- ・ やればできる、うまくなろう、速くなろう、負けないようにやろうという前向きな気持ちを持つ。
- ・ 集団での行動が多いので、ルールを守り協力して活動する。
- ・ 所定の服装で参加する。
- ・ 準備運動を係りの指示にしたがって、しっかりと行う。
- ・ 見学者は生徒手帳に見学理由を書いて、保護者の印をもらったものを担任の先生に見せた後、体育科の先生に必ず見せる。また、見学理由をはっきりと言う。
- ・ 施設や用具は安全に注意して大切に使用する。

(2) 家庭では

- ・ 体力向上のため授業だけでなく、部活動や家庭でも積極的に運動に取り組む。
- ・ 興味をもってスポーツ番組や新聞などを見よう。

3 こんながんばりが評価されます

基本的に、行った單元ごとに評価していき、学期ごとに合計して決定していきます。單元によって、技能テストを行う場合もあります。

通知票では、3つの観点から、以下のようなことが評価されます。

①知識・技能

- 運動技能を発揮することができている。
- 運動技能を高めることができている。
- 運動の特性や保健についての知識を深め、理解できている。

②思考・判断・表現

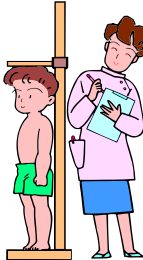
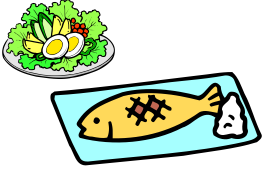
- 各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適応したり、応用したりできる。
- 基本的な知識や技能を活用して学習課題への取り組み方を工夫している。
- 自己の課題の発見や解決に向けて考えたことを、他者に分かりやすく伝えている。
- カード等の提出は確実にいき、内容もしっかりと記入ができている。
- 自分の運動技能の課題を設定し、それを解決するための努力をしている。
- 状況に応じて、仲間と教え合うことができる。



③主体的に学習に取り組む態度

- 公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を持ってできているか。
- 自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとしているか。
- 健康管理をしっかり行い、授業に参加できている。
- 始まりの時間を守り、きちんとした服装で、忘れ物もなく、授業準備ができている。
- リーダーシップを発揮することができている。

4 こんな内容を学習します

体 育 分 野		
1 学期	2 学期	3 学期
○体育理論 運動の多様性などの理論を学びます。 ○体づくり運動 集団行動・新体力テスト 跳躍力、柔軟性、全身持久力など、自分の体力が細かく分かります。 ○陸上競技Ⅰ リレー、ハードル、幅跳び 技能を高めるとともに、記録の追及をします。 ○器械運動Ⅰ マット運動を仲間とアドバイスしながら進めていきます。 ○水泳 クロール、平泳ぎ、背泳ぎを行います。3分間泳、泳力検査	○ダンス 現代的なリズムのダンス 運動会に向けての取り組みがあります。 ○陸上競技Ⅱ 長距離走 ベストタイムの更新を目指して頑張りましょう。 ○器械運動Ⅱ 跳び箱運動 ひとつでもできる技を増やしましょう。  ○球技Ⅰ ソフトボール ○武道（柔道） 男女とも武道（柔道）とソフトボールを行います。	○球技Ⅱ サッカー、バドミントン 課題に合った練習をし、チームで作戦を立てて、ゲームへと発展していきます。 運動の楽しさや喜びを味わおう！！  ※あくまで予定ですので、行事・授業時数等の関係で変更することがあります。
保 健 分 野		
生涯を通じて健康な生活が送れるよう、健康や安全について学習します。  ・ 心身の発達と心の健康 ・ 健康と環境 ・ 傷害の防止 ・ 健康な生活と疾病の予防   これらを、3年間を通して学習します。		

技術・家庭科

技術・家庭科は、現在および将来の生活に必要な技術を、実践を通して学びます。自分でものをつくることを通して、人間の生活にとって技術はどうあったらよいかを考え、家庭生活や社会生活をよりよくする勉強をする教科です。

1 こんな力をつけよう

- ・生活に必要な技術を身につけ、創意工夫してものをつくる力
- ・協力と責任と安全を重んじ、仕事を計画的、合理的にすすめる力
- ・身につけた技術を生活に活用し、生活を明るく豊かにする力
- ・心豊かな人間性を育み、他者とかわる力



2 こんなふうに勉強しよう

授業では

- ・身近なものに目を向け、観察・研究する態度を持とう。
- ・「行う」（製作する）という活動だけでなく、「知る」・「考える」という活動を結びつけて学習しよう。
- ・製作物は正確に美しく仕上げ、さらにどうして？なぜ？と考える姿勢を持とう。
- ・作業の説明・注意をよく聞き、わからない点があったら質問しよう。

家庭では

- ・学習したことを応用して、実生活に生かす工夫をしよう。
- ・家の手伝いを心がけ、家族の一員としての自覚を高めよう。



3 こんながんばりが評価されます

【知識・技能】	
学習で身につけた知識や生活の中に生かすことのできる技能を評価します	○作りたい物の形を正確に表示し、製作の工程をまとめることができるか ○製作するものを正確に加工したりすることができるか ○製作のために機械や機器、道具や工具などを正確に使用することができるか
【思考・判断・表現】	
真剣に取り組み、課題を解決しようとする力を評価します	○製品の形状や作業手順の中に、工夫されている点に気づくことができるか ○「問題は何か？課題は何か？解決方法は何か？」を気づき、考えて、レポートや計画表等で表現できるか ○製作等に取り組む中で、計画を改善・修正することができるか
【主体的に学習に取り組む態度】	
作品や生活をよりよくするために工夫する力を評価します	○授業中の課題に対し、いろいろ考え工夫して解決しようとしているか ○自分の生活を便利にするための新たな工夫や改善点、修正を考えようとしているか ○自分の作品に対し、さらによくするための工夫をしているか ○失敗しても粘り強く取り組むことができるか

4 こんな内容を学習します

技術分野

	1 学年	2 学年	3 学年
一学期	ガイダンス 技術と生活や産業との関わり 生活を豊かにするものを作ろう 間伐材を使った簡単な道具を作ろう	わたしたちの生活と栽培の係わりを考えよう 夏野菜の栽培 - 栽培の見通しを立てよう - 土や養分を考えよう - 日常の手入れ 苗の観察、収穫	情報を活用して生活に生かそう コンピュータの使い方に慣れよう。 - 情報を安全に活用しよう（情報モラルと知的財産） - 双方向性のあるコンテンツのあるWebページなどの設計と製作
二学期	- 木材の特徴 - 工具の使い方 - 製作品の構想表示 板材を使って机の上を整理するものを作ろう - 材料に適した加工法 - 設計	エネルギーの利用について考えよう	
三学期	- 材料取り 部品加工 組立 仕上げ 情報を活用し生活に生かそう - コンピュータの構成と操作 - ソフトウェアの使い方 - 作品のPRをしよう	- 電気って何？ - 電気機器の安全な使い方 - 製作品の組み立て - エネルギー問題について考えよう	プログラムによる計測制御

家庭分野

	1 学年	2 学年	3 学年
一学期	「ガイダンス」 - 自分の成長と家族や家庭生活 「食生活を見つめよう」 - 食事が果たす役割、健康によい食習慣 - 中学生に必要な栄養の特徴	「衣生活を見つめよう」 - 目的に応じた着用と個性を生かす着用の工夫 - 衣服の適切な選択、手入れ	「私の成長と家族とのかかわり」 - 家庭や家族の基本的な機能 - 家庭生活と地域とのかかわり 「家庭と子どもの成長を知ろう」 - 幼児の発達と生活の特徴 - 子どもが育つ環境と家族の役割
二学期	- 中学生の1日に必要な食品の種類と概要 - 中学生の1日分の献立の立て方 - 用途に応じた食品の適切な選択 - 日常食の調理と地域の食文化 	「布を用いた作品づくりにチャレンジしよう」 - 布を用いた物の製作 「住まいを見つめよう」 - 家族の住空間と住居の機能 - 家族の安全を考えた室内環境 - 快適な住まい方	「賢い消費者になろう」 - 消費者の基本的な権利 - 生活に必要な物資、サービスの適切な選択 - 購入及び活用 - 環境に配慮した消費生活 
三学期	日常食の調理(発展)	加工食品を作ってみよう	幼児との触れ合い活動 

英語学習の手引き

1 英語とはこんな教科です

国語のように 言葉を学びます。
数学のように 公式を学びます。
体育のように 体で学びます。
音楽のように リズムにのって学びます。
社会のように 日本や世界を学びます。
道徳のように いろいろな人の心を学びます。

2 こんな力をつけよう

- ① 英語で言いたいことを話す力 (Speaking・スピーキング)
し言いたいことを発表する力、相手に伝える力
- ② 英語を聞いて理解する力 (Listening・リスニング)
- ③ 英語で自分の考えを書く力 (Writing・ライティング)
- ④ 英語の文を読んで理解する力 (Reading・リーディング)
- ⑤ 積極的&自主的に英語を学ぼうとする力(主体性・自ら学ぶ姿勢)
- ⑤ 上の4つの力を使って、世界の人や国のことを理解する力

3 こんなふうに勉強しよう

(1) 心構え8ヶ条

- ① きちんと準備して授業にのぞもう。
(ノート作り 予習・宿題はバッチリと)
- ② 先生の話はしっかり聞こう。わからないことは質問しよう。
- ③ 英語の時間は集中力が命。先生の指示に速やかに反応できるように集中しよう。
- ④ 恥ずかしがらず大きな声で発音したり読んだりしよう。
- ⑤ ペアワークなどの活動には、学んだ英語を使って積極的に取り組もう。
- ⑥ あいさつや会話練習等の活動は、相手の目を見て気持ちを込めてやろう。
- ⑦ 積極的に挙手、発言しよう。
- ⑧ 5秒ルール(会話は5秒以上の沈黙とならないようにしよう)

(2) 家庭学習のポイントは

ワークブックなどを用いて、復習中心の家庭学習をしよう。また、ノート作りを通して予習の仕方を身につけましょう。家庭学習は「少しずつ、でも毎日」が基本です。継続は力なり！！後からジワっと力がついたことが実感できるはずです。

4 こんな頑張りが評価されます

項 目（観点）	内 容	方 法
1. 知識・技能	英語を聞く力 英語を読む力 英語でやりとりする力 英語で発表する力 英語を書く力	小テスト・定期テスト 授業中の様子 ワークシート など
2. 思考・判断・表現	英語を聞く力 英語を読む力 英語でやりとりする力 英語で発表する力 英語を書く力	小テスト・定期テスト 授業中の様子 ワークシート など
3. 主体的に学習に取り組む姿勢	英語を聞く力 英語を読む力 英語でやりとりする力 英語で発表する力 英語を書く力	授業中の観察 ワークシート Check ファイル など
4. 授業に対する態度	積極性・意欲・けじめ・提出物・宿題・家庭学習・チャイム着席など	授業中の観察 各事項のチェック など

＊上記の内容を総合して評価します。

I can do



5 こんな内容を学習します

	1 年生	2 年生	3 年生
1 学期	Be 動詞 一般動詞 5W1H Can 三人称単数現在形	未来形 I think～ I don' t think～ have to don' t have to to 不定詞、動名詞	tell ～ to do I' m afraid (that)～ It...to 構文 間接疑問文 call + 人 ～ make + 人 + 形 使役動詞
2 学期	Why～Because How～？ There is/are～ 現在進行形	比較級・最上級・as～as know how to You look～ 受動態	後置修飾 関係代名詞(主格) 関係代名詞(目的格) 目的格の省略
3 学期	一般動詞過去形 Be 動詞過去形 Be 動詞過去進行形	現在完了 完了 経験 継続	仮定法過去 つながりことば